

ご利用者様が望む「人生の最期」を一緒に叶えませんか？

近年、充実してきた在宅医療ですが、日本では約8割の人が病院で亡くなっています。

一方で、「最期を迎える場所」を尋ねたアンケートでは約半数の人が「自宅」と答え、「医療施設」を望む人は3割程度にとどまります。ご家族への遠慮や負担をかけることへの不安から、人生最後の願いを叶えることが出来ないご利用者様も多いです。自宅で最期を迎えるには終末期に様々なサポートが必要となります。私たちだけではなく、ケアマネジャー様の力を借りアドバンス・ケア・プランニングを進めながらサポート体制が整うことで、穏やかな最期を迎えることが出来ると考えています。

この穏やかな最期を迎える為の手助けを一緒にして行きませんか？



安心して自宅で最期を迎えるためのステップ

		訪問看護で出来ること
ステップ 1	在宅医療を始める準備	病状把握や受け止めや希望を把握し、 どんなサポートが必要かを判断 し、他事業所と連携する。 病状コントロールのために何が必要かを判断 し意思と連携する。
ステップ 2	在宅療養を確立	常に変化する状態へ対応し 安楽を追求 する。 本人家族へ 病状や今後の経過など知識提供 を行う。
ステップ 3	在宅ならではの その人らしさを表現	症状の変化に迅速に対応しながら、実現するための タイミングを見極め、実行 に移す。支える家族を労いながら必要時には サポートの強化 を行う。
ステップ 4	看取りの方針を決定	悪化していく 症状の緩和 に努める。死に至るまでのプロセスを伝える。その中でどんな最後にするのか、決められないことも含めた 意思決定の支援 を行う。
ステップ 5	自宅で最期を迎える	最期を迎える前兆やサインに対する対応方法を確認し、 本人が望んだかたちとなるよう支援 する。
ステップ 6	エンゼルケア グリーフケア	家族の意向を確認しながら一緒にエンゼルケアを行い、 本人・家族を労う 。悲嘆を共有し、 これで良かったと思えるよう支援 する。



在宅療養には様々なかたちがあり、決まりはありません。

【こんなこともできるんです！】

病院で気管切開を受けたとき、「口から食べることは、もうできません」と主治医から言われた。本当につらかった。でも家に帰って、先生は私のわかまを認めてくれた。口から食べられるようになってよかった。家に帰って、私は人間を取り返しました。

【出典：家で看取るといふこと～末期がん患者をケアする在宅ホスピスの真実～/川越厚・川越博美 著、講談社、2005.】

メディナスは終末期医療にも力を入れています！

その為には、ケアマネジャー様の力が必要です！一緒にご利用者様の願いを叶えませんか？

